

# 福島県 介護施設の生産性向上に資するパイロット事業(案)

## 介護を取り巻く環境

- 高齢化の進行や認知症高齢者の増加⇒介護サービスに求められるニーズの多様化・高度化
- 社会経済環境の変化に伴う人手不足が介護にも及ぶとともに厳しい労働環境による離職率の増加

## 目指すべき方向

### 〈業務の効率化〉

- 個別業務の洗い出しと分析を行い、業務の削減や時間の短縮を具現化

### 〈ICT等の活用〉

- ICTやロボットの活用による
  - ・過重労働の改善
  - ・効果的な利用者との関わり

### 〈新たな人材活用〉

- 高齢者による新たな介護支援の創出

### 〈発信と創造〉

- 介護職のやりがいや志を発信するとともに目指すべき姿を創造

## 生産性向上の取組

- ①介護施設若手経営者による業務仕分け(タイムスタディ)
- ②介護ロボットを活用した業務効率化の実証・提案
- ③ICT(センサー)を活用した高齢者の見守りの実用性に関する実証
- ④インカムを活用した業務効率化の実証と効果
- ⑤モバイル端末等を活用した業務効率化と労働力の適正配分
- ⑥高齢者による介護補助・見守り支援
- ⑦介護オープンラボの開催(介護現場の将来像〔課題とその解消〕)

## 事業の枠組

### 推進体制

#### 生産性向上発信会議(仮称)

### ○構成員

- ・福島県老人保健施設協会
- ・福島県認知症グループホーム協議会
- ・福島県老人福祉施設協議会
- ・福島県社会福祉協議会
- ・三菱総合研究所
- ・福島県高齢福祉課

### ○アドバイザー

- ・会津大学
- ・ふくしま医療機器産業推進機構

### ○オブザーバー

- ・福島介護福祉専門学校

## 成果

- 業務効率化による労働環境改善
- 新たな介護人材(高齢者)の発掘
- 利用者へより良いサービスの提供
- 介護職の魅力向上

## 将来像

- 介護職の専門性の向上・ブランド化 ⇒ 介護職の定着・幅広い介護人材の確保
- 介護サービスの質の向上 ⇒ 利用者への最適環境の提供

# 福島県 介護施設の生産性向上に資するパイロット事業(案)

(2019.6.6)

## 取組①

事業名	介護施設若手経営者による業務仕分け（タイムスタディ）（新たな取組）
目的	○業務時間調査による業務の見える化により、作業項目ごとに時間を調査、結果、作業時間の短縮とそれに伴う利用者との関わりに専念できる時間の確保を図る。
内容	<p>〈第1段階：業務時間調査〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○福島県老人福祉施設協議会の21世紀委員会（若手経営者）が所属する介護施設が、介護職員の作業項目ごと、作業時間を調査・比較</li><li>○調査結果をもとに、非効率な作業の見直しや、効率的かつ職務内容に応じた作業分担など、その改善策を検討・実施</li></ul> <p>〈第2段階：作業効率化の実証〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○改善すべき作業を抽出し、そこにインカムや勤務表作成ソフトなどを導入、既存作業からの効率性を作業時間をもとに数値化し、その効果を検証</li><li>○新たな業務手順などを検討</li></ul>
実施施設	〈第1段階〉 10施設 〈第2段階〉 3施設（中通り、浜通り、会津）
期待効果	○労働時間の短縮、利用者サービスの向上 ○業務見える化の取組による業務改善意欲の向上

# 福島県 介護施設の生産性向上に資するパイロット事業(案)

(2019.6.6)

## 取組②

事業名	介護ロボットを活用した業務効率化の実証・提案（拡大）
これまでの取組	○装着型の移乗介護支援ロボット及び見守り支援ロボットなどを導入する施設等に対し、費用の一部を助成することにより、介護支援ロボットの導入を支援している。
今回の目的	○介護職員の腰痛防止対策など働きやすい職場環境・離職防止の対策が必要であるため、介護支援ロボット活用による介護職員の労働負担軽減と作業効率化を実証する。
内容	〈第1段階〉 ○介護ロボットの活用・検証を行う施設を選定し、介護ロボットの活用が期待される業務の洗い出し  〈第2段階〉 ○施設の介護職員からモニターを選定し、洗い出した作業ごと、介護ロボットを利用した場合とそうでない場合とで、比較検証（作業時間、使い勝手（重量、装着時間、安全性など））、それに基づいて数値化し、その改善点を提案
実施施設	○生産性向上発信会議（仮称）が選定する介護施設
期待効果	○活用効果の数値化による介護ロボットの可能性の見える化、それに伴う労働環境の改善

# 福島県 介護施設の生産性向上に資するパイロット事業(案)

(2019.6.6)

## 取組③

事業名	ICT(センサー)を活用した高齢者の見守りの実用性に関する実証 (新たな取組)
目的	○昼夜を問わない高齢者の安全確保や状態観察のために必要な見守り業務について、介護施設と研究機関(会津大学)が連携、ICT技術を導入し、施設での実証を行う。
内容	〈第1段階〉 ○高齢者のプライバシーに配慮し、優しく見守ることができるセンサー技術を活用 ○実証施設を選定し、利用者やその家族の同意のもと、室内にセンサーを設置 ○24時間利用者の動静をセンサーで感知し、行動パターンを解析(1か月間分析) 〈第2段階〉 ○行動パターンの解析結果をもとに、 ①いつ・どのタイミングで見守るか検証(業務効率化) ②更に1か月間(合計2か月)センサー技術による機械学習(深層学習)で利用者の生活パターンの更なる解析、より精度の高いケアプランの可能性を実証(介護サービス最適化) ○実証結果をもとに、更に高度なICT技術の応用を検討 (事例:一人暮らしの高齢者への見守り)
実施施設	○生産性向上発信会議(仮称)が選定する介護施設
期待効果	○見守り業務の効率化と最適サービスの提供 ○ICTを活用した共同研究による介護サービスの高度化

# 福島県 介護施設の生産性向上に資するパイロット事業(案)

(2019.6.6)

## 取組④

事業名	インカムを活用した業務効率化の実証と効果（拡大）
これまでの取組	○昨年度、1施設においてインカムを活用した職員間の報告・連絡の迅速化の実証実験を行った。
今回の目的	○昨年度行ったインカムの活用実証実験について、インカムによる業務効率化の精度を高めるため、「取組①介護施設若手経営者による業務仕分け（タイムスタディ）」とは別にインカムの活用施設を選定し、インカム活用の課題の検証、それを踏まえた更なるインカムの活用方法を深掘りすることにより、情報共有を始め新たな効果について検証する。
内容	<p>&lt;第1段階&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○インカムの導入を夜間に広げるなど、使用目的や方法を決め、職員の研修を行った上で業務に活用し、実証</li> <li>○業務時間の短縮を記録し、その効果を検討</li> </ul> <p>&lt;第2段階&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○インカム活用前後の実介護従事時間を比較し、効果の数値化のほか、インカム活用による費用対効果も検討</li> </ul>
実施施設	○生産性向上発信会議（仮称）が選定する介護施設
期待効果	○活用効果の数値化によるインカムの有効性の検証及び迅速なサービスの提供

# 福島県 介護施設の生産性向上に資するパイロット事業(案)

(2019.6.6)

## 取組⑤

事業名	モバイル端末等を活用した業務効率化と労働力の適正配分（新たな取組）
目的	<ul style="list-style-type: none"><li>○モバイル（スマホ、タブレット）端末等を導入し、介護記録の電子化やデータ集計・解析を行うことにより、業務時間の短縮、円滑なケアプランの作成、職員の業務見直しなどを実証する。</li><li>○利用者の家族と介護サービスの情報共有し、家族に安心を届ける仕組みを実証する。</li></ul>
内容	<p>〈第1段階〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○モバイル端末等を導入し、使用目的、使用方法を決め、職員の研修を行った上で業務に活用し、実証</li></ul> <p>〈第2段階〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○現行業務手順とモバイル導入による手順とを比較検証し、自動処理の有効性を検証</li><li>○情報共有による家族への安心を届ける仕組みの検証 （例：アンケート調査など）</li></ul>
実施施設	<ul style="list-style-type: none"><li>○生産性向上発信会議（仮称）が選定する介護施設</li></ul>
期待効果	<ul style="list-style-type: none"><li>○介護記録入力からレセプトまで一貫した処理による業務の効率化</li><li>○利用者家族からの信頼向上</li></ul>

# 福島県 介護施設の生産性向上に資するパイロット事業(案)

(2019.6.6)

## 取組⑥

事業名	高齢者による介護補助・見守り支援 (新たな取組)
目的	<p>○福島県事業（高齢者就業拡大支援事業等）と連携し、施設が就労意欲のある高齢者の受け皿となり、介護職員の補助や見守りなど高齢者の活躍の場を提供し、結果、介護業務を補い、生産性の向上を図る。</p>
内容	<p>&lt;第1段階&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生産性向上発信会議（仮称）と県事業との連携スキームの構築及び就労マッチングの仕組みづくり</li> <li>○就労の受け皿となる介護施設の選定</li> <li>○介護施設へ就労したい高齢者と受入施設とのマッチング             <ul style="list-style-type: none"> <li>※1 介護施設によっては、職場体験（インターンシップ）も取り入れる。</li> <li>※2 高齢者就業拡大支援事業には当該養成研修が組み込まれている。</li> </ul> </li> </ul> <p>&lt;第2段階&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○潜在労働力（在宅（無職）の高齢者）の発掘</li> <li>○当該事業を呼び水として、新たな介護人材の発掘を検討 （例）施設とのマッチングが可能な高齢者の範囲、その場合の業務内容など</li> </ul>
実施施設	<p>○生産性向上発信会議（仮称）が選定する介護施設</p>
期待成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○介護職員の業務負担軽減分の利用者サービス向上への振り向け</li> <li>○介護補助や、見守り（会話、散歩、趣味）を通して、就労高齢者と利用者の双方の生きがいを創出</li> </ul>

# 福島県 介護施設の生産性向上に資するパイロット事業(案)

(2019.6.6)

## 取組⑦

事業名	介護オープンラボの開催（介護現場の将来像 [課題とその解消] ） （新たな取組）
目的	○介護に携わる人材はもとより、介護に全く関係のないIT系の学生や企業など異なる分野の方々が集う場を創造、介護職のやりがいや志を発信、その上で、介護現場の将来像を課題解決型で議論する。
内容	<第1段階> ○オープンラボのテーマや開催方法等を検討・決定 ○参加する施設、企業、大学、専門学校等を選定し、アプローチ ○介護オープンラボを開催（マスコミオープン） ○オープンラボの成果（課題と解決策）のとりまとめ  <第2段階> ○参加したメンバーの意識変化を調査 ○オープンラボの洗い出した成果のもと、具現化可能な取組を検討
参加者	○生産性向上発信会議（仮称）選定する施設・事業所、企業、大学、専門学校、行政等
期待成果	○介護職のやりがいを発信するとともに、新たな介護の魅力の創造 ○介護職と介護とは全く関係のない参加者からの考えを融合、斬新なソリューションを期待

# 福島県 介護施設の生産性向上に資するパイロット事業(案)

(2019.6.6)

## 生産性向上発信会議(仮称)

- ①生産性向上に関する事業の計画・決定・実施・進行管理・検証を行う。
- ②迅速な情報共有を基本とし、柔軟かつ機動的に運営する。

構成員	アドバイザー・オブザーバー
○福島県老人保健施設協会	【アドバイザー】
○福島県認知症グループホーム協議会	○会津大学 ・先端ICT技術等に関する助言
○福島県老人福祉施設協議会	○ふくしま医療機器産業推進機構 ・介護ロボット活用に関する助言
○福島県社会福祉協議会	【オブザーバー】
○福島県高齢福祉課	○福島介護福祉専門学校 ・教育現場からの意見
○三菱総合研究所（事業主体・事務局）	